

国指定史跡

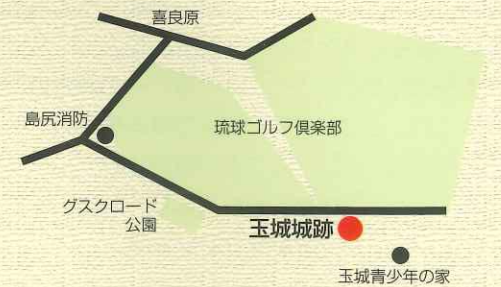
玉城グスク

Tamagusuku Gusuku Ruins

琉球國玉城々趾之圖



琉球國玉城々趾之圖(沖縄県立図書館所蔵)



玉城グスクミニガイド

Guide to Tamagusuku Gusuku Ruins

玉城グスクの概要

玉城グスクは、琉球の正史『中山世鑑』に琉球開びやく伝説につながる琉球七嶽の一つ「天つぎあまつぎの御嶽」が所在し、東御廻り（あがりうまーい）の聖地の一つともなっています。南城市を南北に連なるハンタ緑地の南側丘陵にあり、一の郭が築かれた最高所は標高 180 m を測ります。南・北・西側の三方が断崖をなし、東側に傾斜面がのびる山城です。

築城年代は不明ですが、アマミキヨが築いたとされ、城主はその子孫である天孫子であったといわれています。その後、城主は玉城王子（後に英祖王統第 4 代を次いだ玉城王）となっていました。王位を継ぐにあたり、弟である玉城按司に城を守らせたといわれています。

玉城グスクは、3つの郭からなり、一の郭は最高地に築かれ、城壁の残りがよく、野面積みや切石積みの城壁がめぐっています。城門は自然石をくり抜いて造られています。二の郭・三の郭の城壁は、第二次世界大戦後の建築資材として持ち去られ、現在二の郭の城壁の一部が残るのみとなっています。

グスクの構造と発掘の成果

グスクの規模は、東西 107 m、南北 99 m、面積 4,800m² を測り、独立丘陵上の頂上部に一の郭が位置し、東側傾斜面に向かって末広がる扇状を呈しています。各郭の高低差は著しく、7～8 m 程を測ります。絵図からも見られるように各郭には石積みめぐっており、敵からの攻撃に備えていたことが分かります。

発掘調査で分かったことでは、一の郭の城門南側の石積みは 4 回、北側からは 2 回の積み直しが行われており、数度の改築が行われたことが確認されています。また、最下層からは小穴が見つかり、石積みを積み上げる前に建物があつたと考えられています。



城門

一の郭の城門は、琉球石灰岩をくり抜いたものであり、県内でも 2 例しかない独特の形をしています。間口は狭く、一人一人がかがんで通れる程であり、敵の侵入に対する防御として機能していたと考えられています。表側には 9 段の石段が造られています。



天つぎあまつぎの御嶽



琉球国由来記には「雨粒天次御嶽」と書かれています。アマミキヨが創った七嶽の一つ「玉城アマツツ」であり、琉球国が国家安泰・五穀豊穡を祈願して行った東御廻りの最終地です。また、早魃（かんばつ）の際には、国王自らが雨乞いの祈願を行ったことから、雨乞いの御嶽としても祀られています。